

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	河元 岩男	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 体幹の運動について理解できる。 2. 姿勢について理解できる。 3. 歩行について理解できる。 4. 運動学習について理解できる。			評価方法			
授業概要	運動学で学んだ四肢の運動に加え体幹の運動を理解し、姿勢・歩行へと応用していく。また、運動学習の基本理論を学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PTOT必修シリーズ決して忘れない 運動学要点整理ノート	使用器材	等身大骨格模型、筋模系、ビデオ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頸椎の運動1 頸椎、椎骨動脈						
第2週	頸椎の運動2 頸神経、頸部の筋						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	胸椎と胸郭の運動1 胸郭、胸郭を構成する関節						
第5週	胸椎と胸郭の運動2 胸郭の動き、胸郭の筋						
第6週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第7週	腰椎の運動 腰椎、関節と靭帯、筋の働き						
第8週	姿勢 姿勢とその制御、重心、立位姿勢						
第9週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第10週	歩行1 歩行と運動学、歩行周期						
第11週	歩行2 歩行の運動学的分析、運動力学的分析						
第12週	歩行3 異常歩行						
第13週	小テスト4 前回までのまとめ 授業アンケート						
第14週	運動学習 学習と記憶、運動学習の緒理論						
第15週	総まとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業進行にあわせ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 運動学とその領域について把握できる。 2. 生体力学の基礎を理解できる。 3. 運動器の構造と機能を理解できる。 4. 四肢と体幹の運動を理解できる。			評価方法			
授業概要	ヒトの四肢および体幹の運動の捉え方、表現方法を把握し、それぞれの関節構造・機能、筋の働きを学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PTOT必修シリーズ決して忘れない 運動学要点整理ノート	使用器材	等身大骨格模型、筋模系、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	運動学総論 身体運動学とは、骨運動と関節包内運動、						
第2週	生体力学の基礎 モーメント、重心、身体とてこ						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	運動器の構造と機能1 骨の構造と機能、関節の構造と機能						
第5週	運動器の構造と機能2 腱および靭帯の構造と機能、骨格筋						
第6週	神経系 末梢神経系、シナプス、中枢神経系						
第7週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第8週	四肢と体幹の運動 上肢帯と肩関節での上腕の運動						
第9週	肘関節と前腕の運動						
第10週	手関節と手の運動						
第11週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第12週	下肢帯と股関節の運動						
第13週	膝関節の運動						
第14週	足の関節と足の運動						
第15週	小テスト4 前回までのまとめ 授業アンケート						
授業外 学習指示等	授業の進行に併せ解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法評価学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験39年を有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 評価の基礎を理解する。 2. 評価に必要な基本情報を理解する。 3. 意識障害・全身状態の評価を理解し実施できる。 4. 形態測定を理解し実施できる。 5. 関節可動域検査を理解し実施できる。 6. 得られた結果を解釈できる。			評価方法			
授業概要	評価の目的、意義、過程を理解し、意識障害・バイタルサイン・形態測定・関節可動域検査を実施できアセスメントの考え方を学ぶ。			期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学第6版	使用器材	血圧計、聴診器、ゴニオメーター、メジャー、映像機器 徒手筋力計モービィ、油圧式ピンチヒッター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	評価の基礎 リハビリテーション医療における評価、過程、対象、評価の構成要素						
第2週	意識障害の診かた、バイタルサイン1 循環器、呼吸器						
第3週	小テスト1 前回までのまとめ 授業アンケート						
第4週	形態測定1 身長、体重、四肢長						
第5週	形態測定2 周計						
第6週	小テスト2 前回までのまとめ 授業アンケート						
第7週	関節可動域検査1 正常な関節可動域、最終域感、手順						
第8週	関節可動域検査2 肩甲帯、肩関節						
第9週	関節可動域検査3 肘・前腕、手・手指						
第10週	小テスト3 前回までのまとめ 授業アンケート						
第11週	関節可動域検査4 股関節、膝関節						
第12週	関節可動域検査5 膝関節、足関節						
第13週	関節可動域検査6 頸部、胸腰部						
第14週	小テスト4 前回までのまとめ						
第15週	総まとめ 授業アンケート						
授業外学習指示等	授業の進行に併せ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	機能解剖学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	河元 岩男	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 正しい骨・筋の位置を理解することができる。 2 実際の触診の場面を想定し、患者への配慮など必要な対応力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢の運動器における骨・筋の位置関係を把握し、的確に触診ができる。			期末試験 60% 中間試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢・体幹)	使用器材	マーカー・テーピングテープ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の骨指標触診						
第2週	三角筋・大胸筋・棘上筋・棘下筋の触診						
第3週	小円筋・大円筋・肩甲下筋・広背筋の触診						
第4週	僧帽筋・菱形筋・肩甲挙筋・小胸筋の触診						
第5週	橈骨・尺骨・手根骨の触診						
第6週	上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋の触診						
第7週	上腕三頭筋・長掌筋・手指の筋肉の触診						
第8週	中間テスト						
第9週	上・下前腸骨棘、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、大腿骨頭の触診						
第10週	腸腰筋・縫工筋・大腿筋膜張筋・中臀筋の触診						
第11週	小臀筋・大臀筋・梨状筋の触診						
第12週	膝蓋骨・脛骨・腓骨・大腿四頭筋の触診						
第13週	半腱・半膜様筋・大腿二頭筋・薄筋の触診						
第14週	前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋の触診						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に該当箇所を読み、触診の手順を頭に入れてから参加すること。 2 日常的に触診を繰り返し、復習すること。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅳ(内臓)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 内臓の各臓器の形態と各部位の名称を理解・説明できる。 2 内臓の機能解剖学的意味合いを理解・説明できる。			評価方法			
授業概要	人体における内臓・脈管系について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学 プロメテウス解剖学アトラス(胸部・腹部・骨盤部)	使用器材	パソコン・解剖学DVD・配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	解剖学内臓・血管系総論(PT・OTビジュアルテキスト解剖学の教科書P225・226)						
第2週	循環器系解剖(血管の構造 教科書P226～230)						
第3週	循環器系解剖(心臓 教科書P230～237)						
第4週	循環器系解剖(全身の動静脈 教科書P238～245)						
第5週	呼吸器系解剖(鼻・咽頭・喉頭 教科書P246～251)						
第6週	呼吸器系解剖(気管・肺 教科書P252～260)						
第7週	消化器系解剖(口腔・食道・胃 教科書P262～273)						
第8週	消化器系解剖(小腸・大腸・肝臓 教科書P273～284)						
第9週	消化器系解剖(胆嚢・膵臓・腹膜 教科書P283～287)						
第10週	内分泌系解剖(副腎 教科書P295)						
第11週	泌尿器系解剖(腎臓・膀胱 教科書P299～303)						
第12週	泌尿器系解剖(尿道・生殖器 教科書P303～310)						
第13週	国家試験過去問①(内臓・血管系)						
第14週	国家試験過去問②(内臓・血管系)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.事前に教科書を熟読し、分からない医学用語等を調べておくこと。 2.復習では、プロメテウス解剖学アトラスで各臓器の形態や各部位の名称をノートにまとめること。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	約18年の病院等での実務経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	実際の医療現場で経験する実習に向けて理解を深める。 リハビリテーションを展開するための技法・理論を学ぶ。 介護・福祉関連でのリハビリテーションの役割を学ぶ。 臨床実習の在り方、経験することを事前に学習し、予習する。			評価方法			
授業概要	1 理学療法の技法について理解させる。 2 理学療法の効果についてその根拠となる基本的事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法概論テキスト 理学療法学概論 配布資料	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	期末試験フィードバック						
第2週	リハビリテーション総論						
第3週	臨床実習とは						
第4週	記録(1):記録記載上の原則と記載方法						
第5週	記録(2):記録記載の必要項目と注意点						
第6週	記録(3):症例報告(Case Report)の書き方①						
第7週	リハビリテーション医学(1)						
第8週	リハビリテーション医学(2)						
第9週	小テスト1(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第10週	病院見学、臨床実習、バリアフリー、ユニバーサルデザイン						
第11週	医療保険制度、介護保険制度						
第12週	施設基準、リスク管理						
第13週	小テスト2(前回までのまとめ)、授業アンケート						
第14週	感染予防						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法学演習 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で治療・検査・疾患療法経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	1 国家試験に慣れる。 2 出題形式、傾向と対策が取れるようになる。			評価方法			
授業概要	理学療法を展開するにあたり、基礎的知識や総合的に疾患を診る技術を確実に自分のものにするために研究演習を行う。			期末試験 60% 中間テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必須ポイント基礎医学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	研究法演習総論 自分の知識量の整理						
第2週	基礎解剖学 上肢帯 肩関節						
第3週	基礎解剖学 上肢帯 前腕						
第4週	基礎解剖学 体幹						
第5週	小テスト1(過去出題問題)、授業アンケート						
第6週	基礎解剖学 骨盤						
第7週	基礎解剖学 股関節						
第8週	基礎解剖学 膝関節						
第9週	基礎解剖学 足関節						
第10週	基礎解剖学 アーチ						
第11週	小テスト2(過去出題問題)、授業アンケート						
第12週	基礎運動学 姿勢						
第13週	基礎運動学 正常歩行						
第14週	基礎運動学 異常歩行						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	自己診断しながら問題を解いていきます。本を開く習慣を付けましょう。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	リハビリテーション医学において。 顔面、脊柱、脊髄の解剖を理解する。 末梢神経系の解剖を理解する。			評価方法			
授業概要	人体の解剖をより深く理解する。 特に脊柱・末梢神経系の理解を深めることで運動学、治療学に役立てる。 小テスト40%・期末テスト60%の総合により評価する。			定期試験 60% 中間テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	目でみるリハビリテーション医学 解剖学 プロメテウス 頭頸部・神経解剖学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	リハビリテーション医学について						
第2週	体幹の骨格 頭蓋骨 NO1 脳頭蓋						
第3週	体幹の骨格 頭蓋骨 NO2 顔面頭蓋						
第4週	顔面の筋 表情筋						
第5週	体幹の骨格 脊柱 NO1 頸椎						
第6週	体幹の骨格 脊柱 NO2 胸椎						
第7週	体幹の骨格 脊柱 NO3 腰椎						
第8週	末梢神経 基礎						
第9週	末梢神経 上肢 NO1 腕神経叢						
第10週	末梢神経 上肢 NO2						
第11週	末梢神経 上肢 NO3						
第12週	末梢神経 下肢 NO1 腰神経叢						
第13週	末梢神経 下肢 NO2 坐骨神経叢						
第14週	末梢神経 下肢 NO3						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な方法、解釈法について学ぶ。 ・心理臨床の基本的な態度、心理療法の基礎について学ぶ。			評価方法			
授業概要	国家試験の内容をふまえて重要項目を解説しながら、心理臨床にまつわる視点や心理療法について学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はじめて学ぶ人の臨床心理学	使用器材	液晶プロジェクター パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	臨床心理学とは(心理療法とカウンセリング)						
第2週	精神分析(理論)						
第3週	精神分析(治療とその後の諸派)						
第4週	行動療法(理論と治療)						
第5週	認知行動療法(理論と治療)						
第6週	クライアント中心療法、おさらい・まとめ						
第7週	小テスト、森田療法、内観療法						
第8週	集団精神療法、心理劇、ゲシュタルト療法						
第9週	芸術療法、絵画療法、音楽療法、箱庭療法						
第10週	遊戯療法、家族療法、動作法						
第11週	心理療法その他 おさらい・まとめ						
第12週	小テスト、様々な領域と臨床心理学						
第13週	国家試験対策						
第14週	国家試験対策						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	整形外科学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験11年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解する。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解する。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解する。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解する。			評価方法			
授業概要	整形外科領域における疾患について学習する。 国家試験の過去問を授業資料として取り入れる。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整形外科学 I 総論						
第2週	症状と検査(身体所見)						
第3週	症状と検査(検査)、治療法(保存療法・手術療法)						
第4週	単元試験1						
第5週	運動器疾患総論1 四肢脊椎の先天奇形、骨系統疾患、骨・関節・筋肉の感染症						
第6週	運動器疾患総論2 骨・軟部腫瘍、慢性関節疾患						
第7週	運動器疾患総論3 関節リウマチと類縁疾患、代謝性骨疾患						
第8週	運動器疾患総論4 神経・筋疾患						
第9週	運動器疾患総論5 四肢循環障害						
第10週	単元試験2						
第11週	運動器疾患総論8 腱・腱鞘の疾患						
第12週	運動器の外傷1 骨折・脱臼、骨折の合併症、捻挫・打撲						
第13週	運動器の外傷2 血管損傷、区画症候群、皮膚損傷、筋損傷、挫滅症候群、四肢切断						
第14週	運動器の外傷3 腱・靭帯損傷、スポーツ障害、末梢神経損傷、脊椎・脊髄損傷						
第15週	単元試験3						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	情報・統計学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 基本的な情報処理操作ができるようになる。 2. 統計学の基礎知識を理解する。 3. 各研究方法および統計法を理解し、使用することができる。			評価方法			
授業概要	統計とは何か、統計がどのように利用されるかを理解し、演算などを通じ統計的な思考方法を身につけさせる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	情報統計学 総論						
第2週	情報処理学 Word						
第3週	情報処理学 Excel						
第4週	情報処理学 PowerPoint						
第5週	情報処理学 Search						
第6週	情報処理学 まとめ						
第7週	情報処理学 試験対策						
第8週	統計学 1変量データの記述1						
第9週	統計学 1変量データの記述2						
第10週	統計学 2変量データの記述1						
第11週	統計学 2変量データの記述2						
第12週	統計学 研究法手法						
第13週	統計学 検定法手法						
第14週	統計学 エビデンスレベル・推奨グレード						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては、詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく			期末試験 80% 提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学OT学 専門基礎分野 生理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	心臓と循環						
第2週	心臓と循環						
第3週	心臓と循環						
第4週	呼吸とガス運搬						
第5週	呼吸とガス運搬						
第6週	消化と吸収						
第7週	消化と吸収						
第8週	内分泌						
第9週	内分泌						
第10週	代謝と体温						
第11週	代謝と体温						
第12週	生殖と発生						
第13週	生殖と発生						
第14週	運動生理						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	職場管理 (職業倫理・保険制度含む)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で人事管理、院内会議等の経験有り	担当者	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	現在の複雑な医療システムの中で、効率的かつ安全、そして経済的な医療サービスを提供するには、医療組織全体及び理学療法業務の管理・運営について熟知することが重要であることを理解する。			評価方法			
授業概要	管理・マネジメントの概念を医療及び理学療法業務へ展開し、その重要性について理解を深める。			期末試験 80% 提出物 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法管理学 奈良勲著	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	管理・マネジメントとは 理学療法士の視座から						
第2週	理学療法管理学とは						
第3週	理学療法士の職業倫理						
第4週	組織運営とマネジメント						
第5週	理学療法士の職場管理①						
第6週	理学療法士の職場管理②						
第7週	理学療法業務とマネジメント						
第8週	教育・研究のマネジメント						
第9週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント①						
第10週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント②						
第11週	疾患別・病期別の理学療法マネジメント①						
第12週	疾患別・病期別の理学療法マネジメント②						
第13週	生活期を支援する理学療法マネジメント						
第14週	理学療法を専攻する学生へのメッセージ						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	病理学/内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。 病気に関わる専門用語の定義が理解できる。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている[内科学]「病理学」の基礎的知識を理解する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			定期試験 80% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必修ポイント2022 臨床医学	使用器材	プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	病理学 病理学の概要 病因 退行性・進行性病変						
第2週	病理学 炎症 創傷治癒						
第3週	病理学 感染						
第4週	病理学 腫瘍						
第5週	病理学 病理所見 ①眼疾患②痙縮 病因①循環障害の原因						
第6週	病理学 病因②検査③アレルギー④移植と拒絶反応⑤中枢神経障害の部位とその原因						
第7週	病理学 病因⑥代謝性疾患⑦遺伝性疾患⑧貧血⑨死因						
第8週	内科学①循環器疾患						
第9週	内科学②代謝性疾患						
第10週	内科学③呼吸器疾患						
第11週	内科学④消化器疾患						
第12週	内科学⑤肝疾患						
第13週	内科学⑥内分泌疾患						
第14週	内科学⑦自己免疫疾患⑧泌尿器疾患						
第15週	内科学⑨血液疾患						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「公衆衛生」という分野を理解し、多岐に亘るところへ活用される学問について考えを深められるようになる。 2 自身の生活の中で身につく、統計学や公衆衛生の活用の仕方を学ぶ。			評価方法			
授業概要	公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。			期末試験 90% 提出物 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	分かりやすい公衆衛生	使用器材	ノートパソコン				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	公衆衛生とは						
第2週	健康と環境						
第3週	健康の指標						
第4週	感染症とその予防						
第5週	食品保健と栄養						
第6週	生活環境の保全						
第7週	医療・介護の保障制度						
第8週	地域保健活動						
第9週	母子保健						
第10週	学校保健						
第11週	生活習慣病						
第12週	難病対策						
第13週	健康教育とヘルスプロモーション						
第14週	精神保健福祉						
第15週	産業保健						
授業外学習指示等	付随してある「整理ノート」の中の確認問題は、各自で復習しテストに向けて解いていく。						

令和4年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での理学療法経験39年	担当者	小倉 信作	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 協同学習法によって、課題解決に向けて議論できる。 2. 協同学習法によって、課題(国試問題も含む)をプレゼンテーションできる。 3. 協同学習法によって、議論をリードできる。			評価方法			
授業概要	生理学Ⅱの補完授業とし、学習課題を協同学習法を使って解決する			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学OT学 専門基礎分野 生理学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	心臓と循環 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第2週	心臓と循環 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第3週	心臓と循環 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第4週	呼吸とガス運搬 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第5週	呼吸とガス運搬 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第6週	消化と吸収 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第7週	消化と吸収 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第8週	内分泌 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第9週	内分泌 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第10週	代謝と体温 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第11週	代謝と体温 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第12週	生殖と発生 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第13週	生殖と発生 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第14週	運動生理 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
第15週	試験対策 まとめ 学習課題の協同学習(ジグソー法)						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						